

田村のつぶやき 第22号

2024.4.19 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

4月19日、今日は何の日？

1年365日、毎日何かの記念日になっていますが、4月19日は「飼育の日」（419=しいく）、「保育の日」（4=フォー、19=いく）だそうです。記念日は語呂合わせによるものが多いですね。日本国内には記念日を指定・制定する団体が複数存在しますが、いずれも公的機関ではありません。したがって、記念日を制定するのにこれらの団体の認定を受ける必要も義務もありません。そうした団体の中のひとつが1991年に設立された「一般社団法人日本記念日協会」です。企業、団体、個人などが設けた記念日の認定・登録を行い、ホームページで紹介するなど、さまざまなPRを行っています。記念日の登録には、登録申請を行い、登録料を支払う必要があります。同協会に登録された記念日の数は、2023年10月末時点でなんと2,600件を超えています。ですから同じ日付で複数の記念日が登録されている計算です。

さて、4月19日は「地図の日」でもあります。こちらは語呂合わせではなく、初めて実測による日本地図を完成させた伊能忠敬（いのう ただたか）が1800（寛政12）年のこの日、測量のため江戸を出発したのが由来です。「最初の一歩の日」とも呼ばれています。蝦夷地を目指した伊能は、この時すでに55歳。この時期の平均寿命の正確なデータはわかりませんが、もちろん現在よりはずっと低かったでしょうから、55歳で「最初の一歩」を踏み出すのは、相当な勇気と覚悟が必要だったと思います。その後、16年にわたって日本全国の測量をして歩き、1818（文化15）年、伊能は地図の完成を待たずに亡くなりました。その後弟子たちによって、本格的な日本全土の実測地図である『大日本沿海輿地全図』が完成しました。この地図は「伊能図」とも称されます。「輿地（よち）」とは大地や地球、全世界のことを意味します。ネットで画像検索してもらおうとわかりますが、伊能図は、国土地理院が作成している現在の日本地図とほとんど誤差がない正確さです。

そんな伊能に影響を与えたとされるのが、津和野藩士の堀田仁助（ほった にすけ）です。伊能と同じ年の堀田は、類いまれな天文学の素質が評価され、江戸幕府の天文方として出仕し、伊能が蝦夷地測量に向けて江戸を出発する前年、西洋式測量技術を基に、東蝦夷地の測量・地図制作を行っていました。伊能の蝦夷地測量も、堀田の地図制作なしには成し得ないものであったとされます。その後堀田は津和野へ帰藩し、天球儀・地球儀・伊能図（小図）を作成、藩主亀井茲尚へ献上しました。堀田が制作した天球儀、地球儀は島根県指定の文化財として津和野の太鼓谷稲成神社宝物殿に収蔵されています。

【面談週間について】

新年度、新学期が始まり、約10日が過ぎました。生徒のみなさんは新しいクラス、新しい授業にも慣れてきたところではないでしょうか。江津高校では、年4回の面談週間を設けています。この期間は授業時間を5分短縮し、生徒の悩みを聞いたり、担任からのアドバイスをしたりする時間を確保しています。夏休みには保護者面談（3年生は三者面談）も予定しております。保護者の皆様、この期間以外にも、ご相談等ありましたら、遠慮無く学校（0855-53-0553）へご連絡ください。

※5月からは、Classroomで配信します。「R6_校長」に参加してください。